

令和6年度 市民との意見交換会 報告書

開催日時 令和7年1月26日(日)10時から

開催会場 三原市役所
7階 議事堂(委員会室)
6階 会議室

【開催内容】

意見交換(テーマについての意見交換)

意見交換のテーマ	担当常任委員会
①市民協働のまちづくり ②地域の自主性・自立性を高める取組の推進	総務財務委員会
①健康づくりの推進 ②長寿社会対策の充実	厚生文教委員会
①農林水産業の担い手育成と生産振興 ②空港・港湾を活かしたまちづくり	経済建設委員会

三原市議会

「市民との意見交換会」 報告書

開催日	令和7年1月26日（日） 10時から11時30分		
開催場所	市役所7階 第1委員会室	参加者数	全体で32人
委員会	総務財務委員会	出席議員	8人

■意見交換会テーマ

- ①市民協働のまちづくり
- ②地域の自主性・自立性を高める取組の推進

■まとめ

出された意見、意見交換した内容

（1）市民と行政の関係性について

- ・市民と行政の連携ができていないと感じています。
実際にあった町内でのトラブルですが、ふれあいタクシーについて、内容を文章で報告しようとしたら、口頭で良いと言われました。その後、別の担当者と言った、言わないでトラブルになりました。
お互い良い街にしようとしています。
もっと町内と行政がコミュニケーションを取ることが必要と感じています。

（2）町内会組織の市の位置づけについて

- ・各市内の連合会組織があるが、横のつながりができていないと感じています。
どうしたら活性化できるのかについては、つながりを持つことが必要だと思いますので、その辺りを議会で考えて頂きたい。

（3）町内会活動の担い手確保について

- ・役員を受けてもらうには、きっかけとして町内の掃除に出てもらうなどしないと、いきなりいっただけでも受けてくれませんが、それ以前に、仕事に従事している方は、仕事が忙しくて町内のことができないと言われます。
- ・若い方については、町内会へ入ってもらえない実態があり、更に銀行が15時までなので、仕事を休まないといけないなどの理由で町内会長や会計を受けてもらえません。
- ・中山間地域（大和町）では、区長をやる人がいないといった問題や役員についてもやりたくないと言った意見などがあり、最近では輪番制になってきているところもあります。
- ・町内会長（区長）一人に役割を負わさない仕組み（負担軽減）が必要ではないかと思います。

（4）休耕田の草刈りについて

- ・市に助成してもらっていますが、書類が多く手続きが大変です。
行事をすることで色々な発見があることは良いことですが、手続きを簡潔にして頂きたい。

（5）回覧板について

- ・町内会へ色々な資料がどんどんきます。

組織の中で許可を得たもの（必要なもの）を配布して頂きたい。

（6）自主・自立を高める方法について

- ・沼田東は河川や神社などの草刈り作業がありますが、若い人はお金を払えば良いといった感じで参加してもらえず、全体では100名程度いるのに、たった2人で対応しています。とても大変なので、業者委託を検討して頂きたいことと簡潔に補助申請できる仕組みが必要と感じています。

（7）共助について

- ・どの地域も課題は同じで、どこもボランティアでやっています。
- ・若い人がスッと入って来ない。そして、人のために何かするといったことを感じられません。また、町内行事について、若い人に聞いたら、父が出るからでなくても良いと言われたとの意見もありました。

【委員からのコメント】

- ・委員会視察で研究した事例を説明。（鹿児島：有償ボランティア）
- ・組織的な連携が必要であり、共助を増やす取り組みが、自主自立に必要と考えています。また、次世代の育成をどうやっていくのかが必要であると考えています。
- ・以前、須波地区の町内で「町内会がなくなるとどうなるか？」と質問があり、「町内会がないと町内が真っ暗になってしまいますよ」と答えて、町内会の必要性を伝えたことがあります。
- ・委員会で視察を行った鹿児島では市の職員が1名配置されていました。そして、市民と行政の関係については、それぞれの町内と行政との連携が必要と考えています。
- ・西小学校区についても、人材が心配です。担い手の確保については、スタッフをどれだけ巻き込んでいくか。そして、どう育てていくのが重要であると考えています。

まとめ（次期体制へ引き継ぐべき内容）

この度の意見交換会は、市民の方との意見交換をする中で、今求められていることはなにかを確認することを目的として、①市民協同のまちづくり、②地域の自主性・自立性を高める取組の推進の2点についてのご意見を頂きましたが、先ず、市内の各連合会組織の横のつながりや町内と行政の関わりなど、各組織のコミュニケーションに課題があると感じました。

次に、若い方を中心として、仕事に従事している方の町内会への関わりについての意見が多く、人材が減少しているなかで、町内会への入会対応や役員の担い手確保をどうしていくのか。そして、そのためには町内会活動に関わる役員の負担軽減をどうするのかなどが課題として捉えられると感じました。

頂いた意見を、次の体制につなげていけるように努力していきます。

「市民との意見交換会」 報告書

開催日	令和7年1月26日（日） 10時から11時30分		
開催場所	市役所7階 第2・3委員会室	参加者数	全体参加者 32人
委員会	厚生文教委員会	出席議員	8人

■意見交換会テーマ

- ①健康づくりの推進
- ②長寿社会対策の充実

■まとめ

出された意見、意見交換した内容

①健康づくりの推進

（意見）

（1）健康づくりについて

運動普及リーダー会の運営について、現在ウォーキング大会を年に10回程度開催している。

この度、ウォーキングの基礎講座を行う予定だが、告知には限度があり、イベントの告知チラシの設置について薬剤師会に協力を求め、薬局などにもチラシの配布をお願いしたい。ウォーキング中にトイレ等に困ることがある為、トイレの整備等をお願いしたい。御調の道の駅で開催されるウォーキング大会が参考になると思う。また、大会が町内会のイベントと重なることもあり、日程調整等含め行政との連携を図りたい。低予算のため、大きなイベントでも景品などを用意することができず物足りないという思いもあり、協賛や景品等の補助をお願いしたい。

（2）食生活推進委員として、4支部で活動を行っている。全体で100名程度の参加がある。

公民館の利用申請については、デジタル化が進む中ではあるが、利用する方から使いづらさの声が届いている。ぜひ、紙媒体手続きの継続も求めていきたい。また、物価高の影響で食材調達に苦慮している。補助を再度検討していただきたい。施設利用の際、現在使用している場所が長期的な工事などで使用できない場合は、活動が出来なくなる可能性があるため、会場使用料の減免等を考えていただきたい。

【委員会からコメント】

- ・町内会との連携を図れるよう提案していきたい。
- ・ウォーキングコースの安全化を進めていきたい。現在トイレ設置については、年に4～5カ所ほど、和式トイレから洋式トイレへの改修を行っている。貴重な意見だと思う。

②長寿命社会対策の充実

（意見）

（1）認知症の方へのケアについて

認知症の方の家族は孤独を感じがちだと思うが、どのように対応しているのか。認知症の方への対応などで困った場合どこに相談すればいいのかわかりにくい。

(2) 健診について

特定健診の受診率が低いのではないかと思う。健診を受けると健康寿命の延伸になるのではないか。

(3) 医療について

- ・看取りケアへの対応に遅れを感じる。看取りケアにおいては数日で患者の方の状態が変わりやすい為、申請処理や福祉用具の手配などスピード感を持って対応してもらいたい。
- ・行き過ぎた医療についてはどう考えるか。延命治療はどこまで続けるべきか。
- ・ストーマ装具の補助について、必要物品を揃えようと思うとかなり金額がかかってくる為、補助金の継続をお願いしたい。

【委員からのコメント】

- ・認知症カフェの運営や認知症サポーター養成講座の取組を行っている。
- ・医療の在り方については、今後考えていく必要を感じている。
- ・定期検診の受診率が上がるよう促していきたい。
- ・介護保険の手続きにおいて、法律上、三原市の判断で迅速な対応ができるなら、善処に向けた対応の申し入れも検討したい。
- ・終末期の過剰な医療は、医療費の増加を招く恐れがあるが、大事なものは、本人や家族の意思を第一に尊重することである。
- ・終末期ケアに関して声が上がっていることについて、次期体制に引継ぎを行う。
- ・昨年から健康アプリのお試し運用が行われている。

まとめ（次期体制へ引き継ぐべき内容）

この度の意見交換会は、市民の方との意見交換を行う中で、今求められていることは何かを確認することを目的として、①健康づくりの推進、②長寿命社会の充実の2点についてご意見をいただきました。健康づくりなどの活動の運営面や安全面の強化、医療福祉分野でのスピード感ある対応、特定健診の受診率の向上など幅広いご意見を頂戴しました。その中でも、行政と活動団体との連携、庁内での担当課の横の繋がりに課題があると感じました。

今回いただいたご意見は、議会として、次の体制へつなげていけるように努力していきます。

「市民との意見交換会」 報告書

開催日	令和7年1月26日（日） 10時から11時30分		
開催場所	市役所6階 601・602会議室	参加者数	全体で32人
委員会	経済建設委員会	出席議員	7人

■意見交換会テーマ

- ①農林水産業の担い手育成と生産振興
- ②空港・港湾を活かしたまちづくり

■まとめ

出された意見、意見交換した内容

①農林水産業の担い手育成と生産振興

（意見）担い手不足について

3年前に参加した時と同じ話をしたい。今日に至るまで市議会並びに市長の活動はある程度理解はできるが、実行されていない。久井町は特に担い手不足が激しい。農業がダメだと地域もダメになる。自治会の活動にも支障が出ている。維持させるには行政の支援が必要だ。いかに集落を守っていくか実情を訴えている。そのための策について意見交換する場を設けてほしい。

久井町の農業法人12法人が連携してアグリチーム久井を作っている。官民連携を図っていききたい。

（委員からのコメント）

高齢化、担い手不足そして耕作放棄地の増加は認識している。

地域計画をもとに、現状、耕作をしている人が地域で話し合いをして、点在する農地を集約していく方向に進んでいる。農地中山間機構が、農地の貸し借りの間に入るようになった。

（意見）担い手の行政対応について

本市においては、北部と南部とは差がある。南部の八幡や沼田西・沼田東では、これまで担い手制度が整備されていなかった。農協との連携ができていなかったのか。農協に勤めていたが、昔は農業整備協議会があって、転作が進められていた。集落で減反をするにしても取組が全然違っていた。地域計画がきちんと整備できていないところは補助金がもらえない状況で、市も集落と連携していかないといけない。沼田東は2つほど認定農業者でしっかりやっているくらい。今後の対応が必要だ。次世代を養成したい。

（他の参加者から）

県の農政協議会で、広島・島根・山口・大分・高知の5県でサミットをする。各県の担い手の先進事例の発表がされる。広島県においては、実際に集落法人の経営が難しくなっている。機械化や肥料の購入を2段階でやっていくところなどがある。山口県などは、県や市が集落法人をより安定した経営ができるよう取り組んでいる。

(意見) 林地開発許可について

6月定例会における本郷の埋め立て地について。

日名内川、経済部・建設部は林地開発を許可している。この林地開発は正しいのか。開発許可には規定があるが、議会の監視機能はどうだったのか。許可した結果、汚染されて農業できない家が5件ある。議会としてどう考えているのか。動いているのは議員1人のみである。施設管理者に同意が取得しているとある。今、自分は国土交通省に確認している。国交省も回答に困っている。

(委員からのコメント)

今回は住民の意見を聞く会であり、議員の個々の立場は取り上げない。また時間に限りもあるため、これにて終了とする。

(委員まとめコメント)

- ・農業所得を上げることが最優先にしないと後に続く人がいない。
- ・関係者で話しあう必要がある。

(意見)

- ・自由化で価格が下がった。今年が高いといわれているがこれが普通である。
- ・生産者が安定した経営ができる体制づくりをしなければならない。

②空港・港湾を活かしたまちづくり

(意見) 三原港について

三原から8時の船で小佐木に渡り、そこから瀬戸田に行く場合、三原に戻らないと瀬戸田に行くことができない。航路のあり方が問題になっている。

三原港にいと、満潮と大潮が一緒になって、遊歩道が沈むことがあり、改善してほしい。ターミナルが新設される際に座が高くなるとは聞いているが、状況を知ってほしい。佐木島の人から、三原港に再びフェリーを就航させてほしいとの声を聞いている。

(意見) 糸崎港について

港湾と言えば糸崎が最初の港湾であった。港湾は物流地点。三原市が糸崎に持っていた港湾機能をどんどん弱めている。交流を止めるのは良くない。

(意見) リムジンバスについて

住民がなかなか空港になじみがない。4年前に民間運営に移行して、空港を中心としたまちづくりをしているが、三原へのリムジンバスが1日4便しかない。二次交通の点で話をしてほしい。

(委員からのコメント)

現状年間300万人、9割以上が広島方向へ。まずは滞留時間を高めることを目指したい。

合併時に利用客300万人をめざし、そのうち1割を本郷町に誘導することを目指していたが、結局ビジネス客が大半だった。見て楽しむというところがない。

(意見) まちづくりの定義

まちづくりとは何なのかを共有したい。定義が難しい。個人的には直接的な住みやすさだと考える。基盤整備を行うべき。最終的には経済を循環させることが確立されることである。まちづくりとにぎわいづくりの定義がばらばらになっていて、議論がかみ合わない。皆で共有をしたい。

(委員からのコメント)

愛護センターができ、空港に行くようになった。

森林公園にしても立派なものがあるが、三原市民がどれだけ空港に行っているか定かではない。内向きにも充実させていくべきだ。

(意見) 道の駅について

道の駅、かなり客は多いが人気になるようなものを農業者が販売するなど形となって見えているのだろうか？

(他の参加者から)

取組んでいる。

(委員からのコメント)

道の駅の店舗を広くしてほしいなど議論に上がっている。

(意見)

観光客が買うのと、地域の人が買いに来るのと、特産的なのではなく、安い新鮮な野菜が買えるとか。そういう趣旨もある。

(意見)

道の駅はアンテナショップ。六次産業化を目指すものだ。

(意見) 農業補償について

佐木島で今年のみかんが枯れたらしいが、農業補償はあるのか。

(委員からのコメント)

所得補償制度として自分で保険に入る方法は。

(意見)

三原港については、当事者からいろいろな要望を出していただいているが、ターミナルの建物に関するもののみである。これは、県の管轄となる。

まとめ（次期体制へ引き継ぐべき内容）

①農林水産業の担い手育成と生産振興

- 担い手不足が喫緊の課題であり、行政からの支援も求められている。
- 担い手不足の背景に、薄利が理由の低収入がある。六次産業化も含め、農家が所得向上する仕組み作りが必要である。

②空港・港湾を活かしたまちづくり

- バスの増便やフェリー就航など公共交通機関についての意見が複数出た。
- 三原港ターミナルについては特に意見がなかった。